Check!

くらしに役立つサポート制度

町では、皆さまにくらしの中で活用いただける様々な支援制度があります。ぜひ、この機会にご活用ください。

問 英検等の補助/マラソン大会補助のこと
:生涯学習課　☎84-0325
問 非常用持出袋購入補助のこと
:地域防災課　☎84-0326

英語・漢字・数学（算数）の検定受験料

英語、漢字、数学（算数）を学ぶことの楽しさを知ってもらい、様々な生涯学習活動につなげてもらうため補助を実施しています。

補助額
受験料の1/2～全額　検定や年齢によって変わります
締め切り
各年度の3月25日（休日の場合はその前開庁日）

詳しくはコチラ

マラソン大会出場参加料

気軽に取組めるスポーツであるランニングやジョギングを通して、運動促進や健康増進を図るため、近隣開催のマラソン大会への参加料を補助します。

補助額
大会参加料の1/2（上限額あり）
締め切り
大会開催前日（休日の場合はその前開庁日）

詳しくはコチラ

非常用持出袋購入費用

いつ起こるかわからない災害に備え、各家庭で備えの「最初の一歩」となる非常用持出袋を準備しましょう!

補助額
世帯単位で補助、1人あたり1つの非常用持出袋の購入を補助します。購入価格の1/2（補助上限は1つあたり3,000円）

詳しくはコチラ

申請をお忘れなく!



お詫び

下水道使用料の賦課漏れについて

問 都市整備課　☎84-0321

令和8年6月に下水道使用料を徴収していない賦課漏れを発見し、その後の調査により、町内で41件の賦課漏れがあることが判明しました。

件数	賦課漏れ額の総額
41件	12,107,437円
うち時効消滅分※	**うち請求可能額**
8,255,754円	3,851,683円

※地方自治法第236条（金銭債権の消滅時効）の規定により、5年分については請求可能ですが、それ以前の分は時効となり、賦課する権利が消滅します。

この度は、町民の皆さまに大変ご迷惑をおかけしましたこと、深くおわび申し上げます。
判明した41件については、個別にご説明するとともに、納付のお願いをさせていただいております。
今後、二度と、このような事案が発生することがないよう、再発防止を図ってまいります。

詳しくはコチラ



吹奏楽部の3年生に聞きました!

令和の部活動のイマに迫る!!
部活動地域展開3年目の文中部活動に潜入!!

文命中学校の部活動の地域展開が始まって3年目。
今では運動部を中心として、多くの部活動が地域展開しているということですが、この3年で部活動はどう変わったのか!?早くから地域展開に取り組みはじめている「吹奏楽部」を取材してきました!

問 調べて！まちの調査隊のこと：企画政策課 ☎84-0312
:学校教育課 ☎82-5221



生徒のVOICE

指導者が入部の決め手!



みんな吹奏楽は初心者で入部しました。
本澤先生（地域指導者）が指導されるということが、入部を決めた理由のひとつです!

井上さん（3年）

関わる皆さんへの感謝



当たり前のことですが、練習をとおして、まわりのたくさんの方にサポートしてもらっているというのを実感し、挨拶や感謝を伝えられるようになりました。

菊池さん（3年）

練習のリズムが確立



平日はパート練習、土曜日は本澤先生が来て、全体練習というメニューが定着しています。

大野さん（3年）
部長





取材に伺うと、いきなり発声練習が始まってびっくり！発声は音感、管楽器の息の使い方などに有効なのだそうです！これも地域の指導者ならではの指導！？

吹奏楽部の地域指導者本澤さんに聞きました!

地域指導者のVOICE

今の3年生は入部した時から地域展開が始まっているので、この環境が当たり前になっています。現在は、基本的に週1回、大会やコンクールの前などは、週3回指導に来ています。この3年間でコンクールで結果が出るなど、技術が上がってきています。
顧問の先生との連携に気をつけています。平日と土曜日の練習をどうつなげていくか、そこをさらに深めていくと、この地域展開の完成形にさらに近づくと思います。



吹奏楽部地域指導者　本澤尚之さん
開成町を中心に活動する「開成ジュニアアンサンブル」代表。作・編曲家。

取材後記

地域展開が3年目になると、すっかり定着した感がある「部活動の地域展開」。開成町らしいスタイルが確立しつつあるなと感じました。学校の先生の働き方改革にもつながり、顧問の先生が他の学校へ異動してしまっても、部活動の指導は引き継がれていく――。さらに、技術や結果だけでなく、物事に取り組む姿勢や考え方など、その道を極めた地域の指導者だからこそ伝えられるものを、しっかりと生徒の皆さんが受け取っていることに、地域展開の真価が発揮されているなと思いました。

まちづくり情報特派員　石崎　雅美